





## 新政あいち県議団 代表質問から (12月5日 本会議 嶋口忠弘 政策調査会長)

## 主な質問 ①

## 次代を担うロボット産業の振興について

Q

2020年開催予定の2つのロボット国際大会を通じ、本県のロボット産業の振興や世界への発信について、どのように取り組んでいくのか？

知事

大会において様々な最新ロボットやA I の展示・体験、デモンストレーションなどを展開する他、本県独自の取組として、会場となるAichi Sky Expoや中部国際空港を近未来技術のショーケースに見立て、会場案内や警備、移動支援などのサービスロボットが活躍する姿をご覧いただくことを計画している。

一方、ロボット国際大会は、本県の研究者や技術者が世界中の研究者らと交流、連携を図ることで、有益な技術的知見やロボット開発のヒントを得ることができる貴重な機会でもあり、本県が促進するロボットの研究開発や実証実験の取組を通じて、新たなイノベーションの創出へとつなげていきたいと考えている。

## 主な質問 ②

## 多文化共生社会づくりの推進について

Q

外国人県民が増加する中、地域で安心して暮らせるための災害対策や医療体制の充実に向けて、どのように取り組んでいくのか？

知事

災害対策については、「愛知県災害多言語支援センター」を開設し、毎年度の県・市町村総合防災訓練の中では、センターの設置運営訓練を実施している。

今年度からは、多文化防災に携わる関係機関で構成するネットワーク会議を開催し、情報共有や連携の強化を図っていく。

また、医療体制については「あいち医療通訳システム推進協議会」を設立し、通訳者の派遣や、電話通訳サービス、紹介状・診断書等の翻訳を行っている。

今後は、増加が予想されるアジア圏の言語を中心に、より多くの医療通訳者の養成にも取り組み、引き続き、災害対策や医療体制の充実を図り、外国人県民の皆様が、安心して働き、暮らすことができる多文化共生社会を実現していく。

## 主な質問 ③

## 教員の多忙化解消と良好な教育環境の整備について

Q

児童生徒や教員にとって良好な教育環境の整備を図っていくため、勤務時間管理の徹底、外部人材の活用等による教員の業務の縮減、学校運営の効率化・最適化など、どのように取り組んでいくのか？

教育長

勤務時間外の在校時間が80時間を超える教員の割合について、昨年度の目標に関しては、小学校では、53市町村中11市町村、中学校では12市町村、県立高等学校では150校中53校、特別支援学校では29校中22校が達成という状況で、今年度、全ての学校で0%にするという目標の達成は、厳しい。

こうした中、国は、来年度から勤務時間外の在校時間の上限を月45時間とするガイドラインを法律上の指針として位置付けることとしており、その実現のため、教員が担う業務の明確化・適正化の取組を徹底するとともに、教員以外の専門スタッフの活用、外部への業務の移行をより一層進めていく必要がある。

来年度は、部活動指導員やスクール・サポート・スタッフなどの配置の拡充や、国の動きを踏まえた多忙化解消プランの見直しを検討していく。

## 主な質問 ④

## 児童虐待防止に関する取り組みについて

Q

児童虐待相談対応件数は、9年連続最多件数を更新している現状から、児童相談センターの体制強化にどのように取り組んでいくのか？

知事

児童相談センターの体制強化を喫緊の課題であると認識し、これまでも3年間で専門職員を48名増員している。

こうした中、本県では児童福祉司等を現在の207人から300人程度に増員する必要があるため、2020年4月採用の職員採用試験から、新たに「30歳から59歳まで」を対象に「特別募集」を行い、より経験豊富で専門性の高い人材を採用する予定。

今後とも専門職員の計画的な増員を進め、必要な人材の確保を図るとともに、本県独自の研修を実施し、経験年数の短い職員の専門性の強化を図っていく。

さらに、複雑化・困難化する事案に、対応できるよう、弁護士による相談体制の充実や、警察官OBの増員等を行っていく。こうした取組を通じ、質と量の両面から児童相談センターのさらなる体制強化を図り、未来を担う子どもの命を守ることを最優先に、児童虐待防止対策にしっかりと取り組んでいく。

## 一般質問要旨 「予期せぬ妊娠」相談事業が「命を守る砦」となるために…

「予期せぬ妊娠」をした特に中高生等若年者が、自宅出産や産科未受診の飛び込み出産となり母体胎児ともに命の危険にさらされる危険性が高いことや、出生した生後0日の胎児虐待死に繋がる可能性がある等の課題認識のもと、「予期せぬ妊娠」相談事業の体制整備について質しました。

県当局は相談窓口の一層の周知、メールを活用した相談手段の拡充を含め、産婦人科系医療機関等関係機関と連携し具体的な取組を検討していくと答弁。

もう一步踏み込んだ対応として「予期せぬ妊娠」に特化した「妊娠SOS相談窓口」を設置し、救われるべき命をいち早くピックアップする相談体制を整備するよう県当局に求めました。

その他、「もりの学舎」を中心とする未就学児童向けの自然体感型環境学習事業のさらなる拡充、後継者のいない中小企業や小規模事業者の事業承継問題につきマッチング支援（後継者人材バンクの設置等）の環境整備の積極的推進を県当局に求めました。

新政あいち県議団の質問録画は 愛知県議会 で 検索 ぜひ一度ご覧ください！

## 活動報告 ①

## SDGsモデル事業（長崎県壱岐市）

壱岐市は、愛知県と同じくSDGs未来都市に選定され、超スマート社会Society5.0という新たな時代を見据え、島内の大人から子供、島内外の企業、行政も巻き込んで、みんなで知恵を出し合いながら未来に向けた事業を現実に進めつつあります。

多様な働き方の一つ「テレワーク」と各種研修を壱岐市で実施してもらおうと、拠点として簡易滞在施設を整備。島外企業に積極的に利用してもらい、島内外の交流を広げ、市の活性化につなげようとする取り組みについて現地施設調査と意見交換を実施。

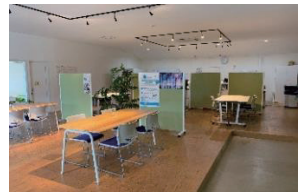
愛知県も、2027年リニア中央新幹線開業を控え、アクセスの利便性等強みを生かした取り組みを、SDGsの掛け声だけでない、具体的な形としてスピード感をもって進めていく必要があります。



▲壱岐市とのヒアリングの様子



▲テレワーク拠点の外観



▲テレワークセンター内の様子



▲利用者向け短期滞在施設

## 活動報告 ②

## 人間力を育てる「教育改革」（広島県大崎上島町）

「学びの変革」アクションプランを掲げ、今年度モデル校として開校した広島県立叡智中高一貫校について学ぶため、広島県教育委員会及びその一貫校に出向き現地調査を実施しました。

これまでの詰め込み型のいわゆる良い高校良い大学への進学を目指す教育から、課題形成・解決型の社会で成果を発揮する人間力向上を目指す教育への変革。

限られた予算、教職員の育成(留学研修)、教育プログラムの開発・研修、そして何より広島県教育委員会の本気度を伝える関係機関への理解活動の説明には、教育にかける、子どもたちを育て導く熱意を感じました。

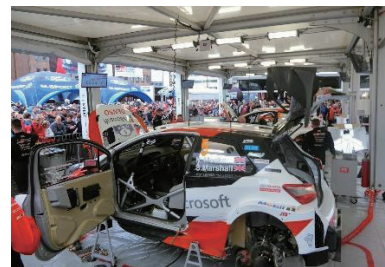
以前視察した大阪市立水都国際中・高等学校同様、全国各自治体が独自のグローバル人材育成を始めているのです。愛知県も遅れを取ってはなりません！



▲小学生の授業の様子  
この日は、外部講師を招いて「SDGs」をテーマにゲーム形式で学び、発表をしていました。

## 県政トピックス ①

## 「FIA世界ラリー選手権」の愛知・岐阜での開催決定！



開催概要

開催日時 2020年11月19日～11月22日（予定）  
開催エリア 愛知県内および岐阜県内の公道  
メイン会場 愛・地球博記念公園（通称モリコロパーク）

『FIA世界ラリー選手権（WRC）』が、本年11月に日本（愛知・岐阜）で開催決定！

過去には、2004～09年の中断を挟み2010年までの6回に渡り北海道で開催された事もありますが、本州では初開催。

なお、FIA世界ラリー選手権（WRC）とは、フォーミュラワン（F1）や、ル・マン24時間耐久レースを含む世界耐久選手権（WEC）などと並び、国際自動車連盟（FIA）が管理する4つの世界選手権の一つ。1973年以来毎年開催される歴史と伝統を誇る世界最高峰のラリー選手権であり、現在は地元企業であるトヨタ自動車も参戦中。ぜひ皆さんで大会を盛り上げましょう！

## 県政トピックス ②

## 「あいち技能五輪・アビリンピック2019」愛知県選手団が奮闘！

あいち技能五輪・アビリンピック2019が、11月15日～18日まで、愛知国際展示場を始め、県内4市9会場で開催、技能五輪に42職種1,239名、アビリンピックに23種目382名の選手が全国から参加し、白熱の競技が繰り広げられました。

愛知県選手団は、技能五輪で金賞12名を始め93名の入賞、アビリンピックは金賞4名を始め15名が入賞という成績を収めました。

この結果、愛知県選手団は、技能五輪全国大会で第43回大会から15年連続で最優秀技能選手団賞を獲得、

全国アビリンピックでも、昨年に引き続き、メダル獲得数全国1位という輝かしい成績を収めることができました。

また、愛知県選手団は、今回新たに創設された「女性の活躍賞」についても受賞しました。



▲15年連続で最優秀技能選手団賞を獲得した愛知県選手団



大会PRキャラクター「アイチータ」